



- 送受信データ量を最大8倍にバージョンアップ -
オープンフィールドネットワーク「CC-Link Ver.2.0」をリリース

CC-Link協会(CLPA/会長:関口 隆 横浜国立大学名誉教授/幹事会社:和泉電気株式会社、ウッドヘッドジャパン株式会社、株式会社コンテック、株式会社デジタル、日本電気株式会社、松下電工株式会社、三菱電機株式会社)では、2003年1月からCC-Linkをバージョンアップいたします。

今回のバージョンアップは、送受信データ量を最大8倍まで拡張可能にしたものであり、従来からのFA分野に加え、特に半導体製造装置や計装制御などでの大容量のデータ通信が要求される分野にまで適用範囲が広がり、日本発のオープンネットワークとして、国内外の産業界に広く普及・拡大が期待できます。

1.バージョンアップの背景

CC-Linkは、データ伝送の高速性、定時性などの優れた性能により、幅広く支持されておりますが、その一方で、半導体製造工程のIn-Situモニタ用に代表されるような“1台で大量のデータの送受信を必要とする用途”が多くなってきており、このような装置・機器にも対応できるようにデータ量を拡張して欲しいとの声がユーザーやベンダーから寄せられています。

CLPAでは、これらの要望に応えるために、テクニカル部会を中心にCC-Link通信仕様のバージョンアップを検討・審議を進め、この度その基本仕様が決定しました。

来る12月4日からの開催されるSEMICON-Japan2002(幕張メッセ)においてもプレゼンテーションを予定しております。

2.バージョンアップの狙いとターゲット分野

「CC-Link Ver.2.0」は、従来からの自動車、半導体、搬送、食品など各種FA分野での省配線を目的とした用途に加えて、半導体製造工程における“In-Situ モニタ”や“APC(Advanced Process Control)”用、計装制御における“多チャンネルのアナログ/デジタル変換データの送受信”用など、大容量でしかも定時性のあるデータ送受信が必要とされる用途・分野でのニーズに応えたものです。

3.バージョンアップの内容(新バージョンの基本仕様)

(1)通信仕様(現バージョンとの比較)

| 項目 | | 新バージョン Ver.2.0の仕様 | 現バージョン Ver.1.11の仕様 | 備考 (Ver.2.0/Ver.1.11) |
|---------------------------|-------|---|-----------------------------------|--------------------------|
| 最大リンク点数 (データ量) | | RX/RY :8192ビット RWw/RWr:各2048ワード | RX/RY :2048ビット RWw/RWr:各256ワード | 4倍 8倍 |
| 1台当たりの リンク点数 (データ量) | 1局占有時 | RX/RY :32~128ビット RWw/RWr:各8~32ワード | RX/RY :32ビット RWw/RWr:各4ワード | 4倍 8倍 |
| | 4局占有時 | RX/RY :224~896ビット RWw/RWr:各32~128ワード | RX/RY :128ビット RWw/RWr:各16ワード | 7倍 8倍 |
| 1台当たりの占有局数 | | 1~4 | 同左 | |
| 拡張サイクリック設定 | | 1倍、2倍、4倍、8倍 | なし | |

(2)ネットワーク上での互換性

マスター局が新バージョン(Ver.2.0)対応品の場合、スレーブ局としては現バージョン対応品のみでも、新・現バージョン対応品混在でも、現バージョン対応品は何ら変更することなしに使用(通信・制御)ができます。(但し、現バージョン対応品は現バージョンの仕様範囲内での使用)

4. 新バージョン仕様リリースまでのスケジュール(予定)

- 2002/12/4～6 …… SEMICON-J2002(幕張メッセ)CLPAブースでのプレゼンテーション(予告)
- 2002/12/中旬 …… 詳細仕様確定(CLPAテクニカル部会での審議・合意)
- 2002/12/下旬 …… 詳細仕様承認(CLPA幹事会での審議・承認→CLPA規格として認定)
- 2003/1/10 …… パートナー会員へのCC-Link Ver.2.0仕様書のリリース

以上のように、「**CC-Link Ver.2.0**」は、多くのユーザーに望まれていた“大容量のデータ送受信”にも応えることができるようになりました。ネットワーク技術に対するニーズが益々多様化しつつある昨今、今回のバージョンアップは、皆様を強力にバックアップしうると確信しております。

CC-Link協会では、今回の**CC-Link**のバージョンアップを新たなる出発点として、今後もFA分野の技術革新に寄与すべく、国内外の枠を越えて「日本発のオープンネットワーク:**CC-Link**」の普及活動に尽力して参ります。